

肝炎ウイルス検診について

肝臓は沈黙の臓器といわれ、**病気がかなり進行しないと症状がでてきません。**

肝臓になる原因の約90%は**肝炎ウイルス**だとわかっています。

問題は症状がなかなかでないため、自分が肝炎ウイルスに感染しているのを知らずに生活していることです。

検査は次の方が申し込めます。

当該年度において35歳以上の一般健診を受診する方。

広範囲な外科的処置を受けたことがある方。

妊婦若しくは分娩の時に多量に出血したことがある方で、一般健診を受診する方。

一般健診を受診された方のうち、検査結果において、GPTの値が36以上であった方。

一般健診を受診された方のうち、過去に肝機能異常の指摘を受けたことがある方。

ただし **過去にC型肝炎ウイルス検査を受けたことがある方を除きます。**

肝炎ウイルスは数種類ありますが、

日本においてはBおよびC型肝炎ウイルスが慢性肝炎、肝硬変、肝臓へと進展していきます。

これを機会にB およびC型肝炎ウイルスをチェックしておきましょう。

また、肝炎ウイルスをもっている方が肝硬変、肝臓への進展を防ぐために新しい抗ウイルス剤が開発され保険適用となっています。

従来のインタフェロン製剤との併用、高容量のインタフェロン製剤が新しく投与できるようになりました。

インタフェロン製剤の投与については今まで投与期間と再投与について、いろいろと制限がありましたが、2月からは自由に使用できるようになっています。

肝炎ウイルスの陰性化が期待されています。

肝炎ウイルスをもっている方は腹部超音波検査などを含め、定期的な経過観察の必要があります。

一度専門医にご相談ください。